

米国

ISM景況指数（2022年2月）

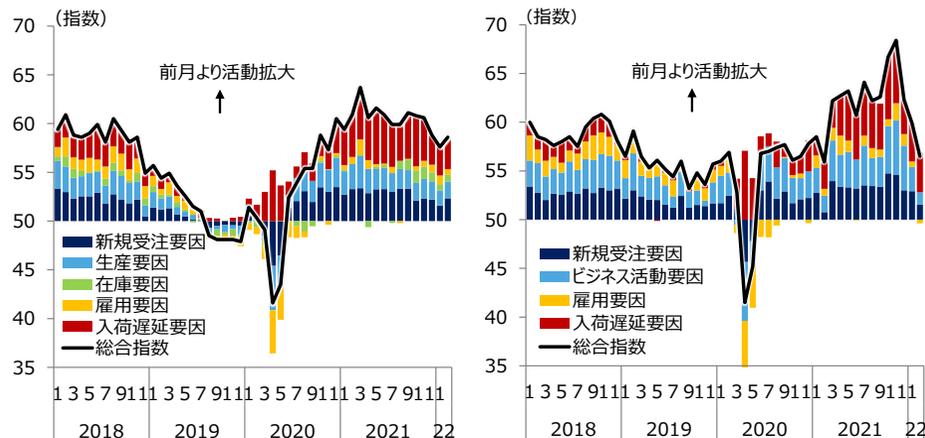
政策・経済センター

田中高大

03-6858-2717

供給制約とインフレが続くなか、ウクライナ情勢が新たな下押し要因に

1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）

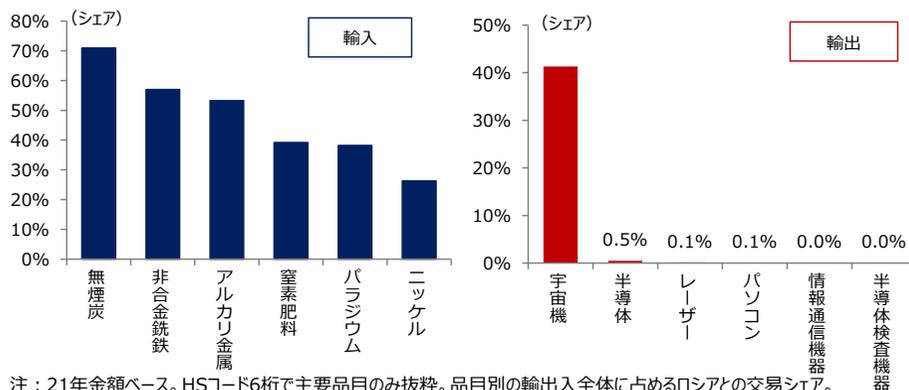


注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。

出所：Institute for Supply Management®

2 対露制裁と品目別輸出・輸入比率

- ・ **SWIFT排除**：一部露金融機関をSWIFTから排除
- ・ **輸出規制**：半導体や情報通信、航空宇宙など7分野57技術の輸出規制
- ・ **エンティティリスト追加**：軍事企業など49企業を追加登録



注：21年金額ベース。HSコード6桁で主要品目のみ抜粋。品目別の輸出入全体に占めるロシアとの交易シェア。

出所：UN Comtrade より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年2月のISM製造業景況指数は58.6と4カ月ぶりに前月から上昇した。項目別では、新規受注や生産、入荷遅延が上昇、雇用は低下した。サブ項目の仕入れ価格は前月からわずかに低下したものの高水準で推移している。
- ISM非製造業景況指数は56.5と3カ月連続で前月から低下、1年ぶりの低水準となった。項目別に見ると、入荷遅延が上昇した一方で、ビジネス活動や新規受注、雇用が低下、特に雇用は縮小水準に低下した。サブ項目の仕入れ価格は前月から上昇、過去2番目の水準となっている。

基調判断と今後の流れ

- オミクロン株の感染拡大ペースは鈍化しているものの、特に非製造業において、人手不足や仕入れ価格の上昇が企業活動の制約となっている。
- 加えて、ウクライナ危機が企業活動に与える悪影響への懸念が高まっている。短期的には、①経済制裁等による対露輸出減少、②報復措置による素原材料の供給制約、③エネルギー価格高騰によるコスト上昇、に注意が必要だ。
- ①については、SWIFTからの一部銀行排除や重要技術の輸出規制が発表されており（図表2）、既に大手自動車メーカーが輸出を停止する動きもでている。もっとも、重要技術の直接的な輸出シェアは、宇宙機など一部を除けば小さく、輸出全体に占めるロシアのシェアも0.4%程度であり、影響は大きくないだろう。
- 一方、②については、米国は無煙炭や、パラジウム（半導体や自動車の材料）など一部の素原材料の輸入をロシアに依存している。供給網の混乱や報復措置によってこれらの調達が困難な状態が続けば、生産活動に影響が出よう。
- また、③のエネルギー価格の高騰も要警戒だ。米国はエネルギー産出国であり、エネルギー調達リスクは欧州に比べて低いが、国際的な原油・天然ガス価格が上昇しており、輸送コストの上昇などを通じて製造業・非製造業の収益を圧迫しかねない。